

ホームヘルプサービス事業

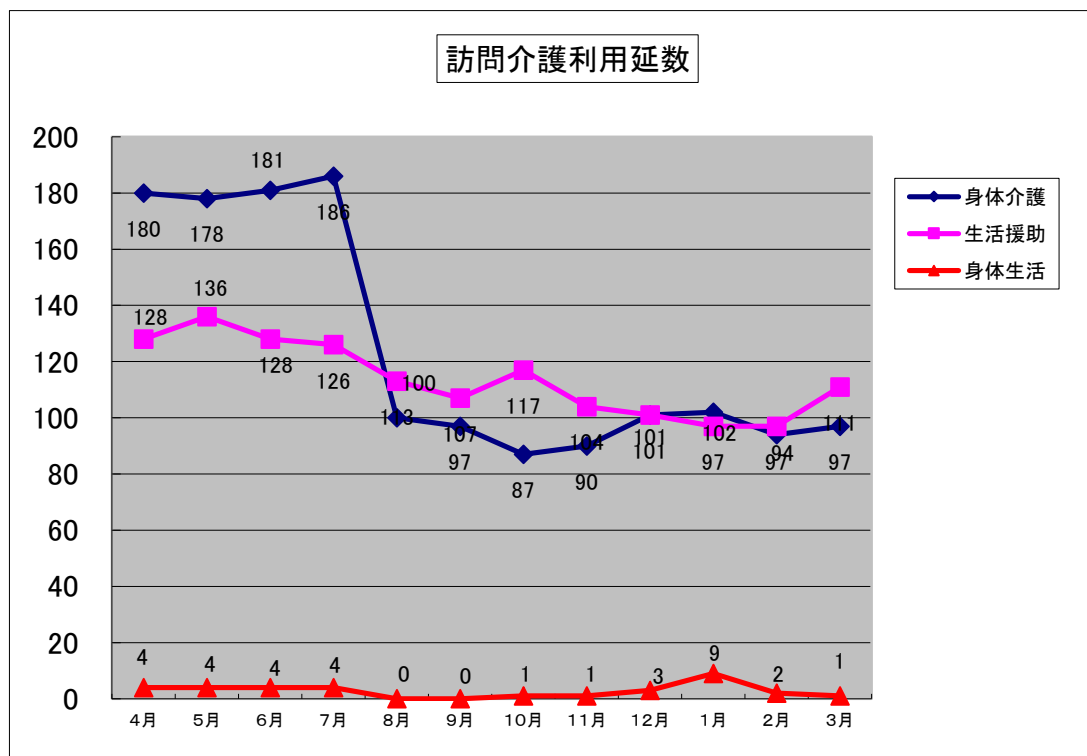
介護保険法に基づき、65歳以上の方で、要支援1以上のご利用者に対して、家事援助及び身体介護・複合サービスを行う事により、自立した生活ができるよう援助させていただきます。

(1)事業開始年月日
平成12年1月1日

(2)営業時間等
午前8時30分～午後6時

(3)平成30年度月別利用状況

	利用者実数	利用者延数			利用延時間
		身体介護	生活援助	身体生活	
4月	22	180	128	4	232:45
5月	22	178	136	4	237:45
6月	21	181	128	4	237:00
7月	21	186	126	4	234:45
8月	19	100	113	0	163:30
9月	18	97	107	0	160:30
10月	18	87	117	1	159:15
11月	17	90	104	1	152:30
12月	20	101	101	3	166:00
1月	19	102	97	9	174:15
2月	19	94	97	2	157:45
3月	19	97	111	1	168:15
合計	235	1,493	1,365	33	2,244:15



(4) 事業目標・評価

平成30年度 ホームヘルパー事業目標

その人らしい在宅生活が継続出来るよう援助する

- 信頼関係を築く
 - ・尊厳の思いを忘れない
 - ・ご利用者様の思いを傾聴し、理解する
 - ・話しやすい関係づくりを心掛ける
- 意識して観察し、ご家族様や他事業所との共通の思いを持って援助する
 - ・気づいたことはご家族様や他事業所に早めに報告・相談する
 - ・ご家族様の思いも尊重する
 - ・ヘルパー間での伝達や記録の漏れの無いように注意し、連携していく
- 認知症ご利用者様への柔軟な対応を心掛ける
 - ・ご利用者様の行動や言動に十分観察し、思いを理解する
 - ・ヒヤリハットは早めに検討し、事故防止する
- その人の潜在能力を活かした援助を心掛ける
 - ・自立支援を意識した援助を心掛ける
 - ・過剰なケアに気を付ける

【事業目標に対する評価】

独居のご利用者様にとって年々身体や脳の動きに衰えを感じるという方が多く生活に不安を抱える為、少しでも傾聴しながら一人ひとりの思いに添えるよう援助してきた。「出来るだけ長く自宅で生活したい」という思いを尊重しながら出来る事はなるべく継続してご利用者様が出来るよう見守り、負担になる部分を援助してきた。下肢筋力の低下が伺える時には手摺りの設置など福祉用具の提案をし、ケアマネジャーに繋ぐ対応をとり安全で動作が楽に出来る様心掛けた。ケースによって、ご利用者様は限界まで自宅で生活したいと思っているが、ご家族様はなるべく早く施設入所を考えることもあり、それぞれの思いにズレがあるととても難しく感じる事があった。ただ、ご利用者様に認知症状がみられていても「まだ、私はボケていない。ヘルパーさんに手伝ってもらいながらも自宅で居られる」という思いもあり、尊重しながらサービス中の様子などをケアマネジャーやご家族様に報告し、経過観察しているところだ。

生活援助で洗濯する際、ディサービスから持ち帰ったはずの洗濯物が見当たらず、探すとタンズの中に片づけていることがあった。そのようなご利用者様にはご家族様にも理解を得て、洗濯物の置き場所を決めて表示したり、ディサービスから直接預かるなどの対応でスムーズにサービスが課題を解決しながら進められている。サービス中はご利用者様との関係も馴れてくると、いつの間にか個人の倫理観で進めがちになるが、ヘルパー間で共通の職業倫理を意識するよう心掛けてきた。今後も職業倫理がご利用者様の生活や健康、尊厳につながることを理解し、継続していこうと思う。

令和元年度 ホームヘルパー事業目標

ご利用者様の意思を尊重しながら個別ケアの対応を心掛ける

- ご利用者様・ご家族様との信頼関係を築く
 - ・尊厳の思いを忘れない
 - ・その人らしさを尊重し、意向に添った援助を心掛ける
 - ・話しやすい関係づくり
- 潜在能力に合わせた援助を意識して努める
 - ・ケアプラン、計画書を十分把握する
 - ・ご利用者様の能力の観察、気づきを心掛ける
 - ・自立支援を意識する

- ・過剰なケアに気をつける
- 認知症ご利用者様の援助は柔軟に対応する
 - ・ケアプラン、計画書は十分把握する
 - ・生活歴や趣味、思い出などに着目しその人らしさを引き出す
 - ・症状を把握し、行動や言動を理解する
 - ・事故防止を意識して常に観察する
- ご家族様や関係部署と共通の思いで援助する
 - ・ご利用者様の変化や気づきは早めに報告、相談する
 - ・自己の主観で判断せず、共通の意識を持つ